
隔週刊「農業文化マガジン『電子耕』」 第 379 号

—環境・農業・食べ物など情報の交流誌—

2015.06.12（金）発行 山崎農業研究所&編集同人

<キーワード>

環境・農業・健康・食べ物などの情報提供、高齢者と若者、農村と都市の
交流ミニコミ誌。山崎農業研究所&『電子耕』編集同人が編集・発行。

<http://www.yamazaki-i.org>

*****発行部数 1029 部*****

□ 目 次 □-----

<巻頭言> <編集後記> 惜別——宇沢弘文博士

<新刊紹介>

安富六郎著『武蔵野・江戸を潤した多摩川——多摩川・上水徒歩思考』

<お知らせ 1> 山崎農業研究所所報『耕 No.135』発行されました

<お知らせ 2> 山崎農研編「平成のマドンナ」シリーズ No.8 完成しました

<編集後記> 男は好き嫌いを言ってはならない、のだが

<編集後記> 惜別——宇沢弘文博士

昨年、私たちは、日本の農政にとって大事な人を失った。宇沢弘文博士（東京大学名誉教授・日本学士院会員）である。1956年に米国に渡り、シカゴ大学で教授として数理経済学を研究し、教授となり、「宇沢モデル」を構築し、その後の経済学理論の発展に大きな影響を与えた。

シカゴ大学からはノーベル経済学賞者が多数輩出している（12名）。宇沢博士は日本人で唯一、ノーベル経済学賞候補にノミネートされていた。しかし、彼は市場原理主義的マネタリズムの経済学手法を批判し、帰国して、人間性豊かな社会づくりに貢献する実践的な経済学を追求した。

『自動車の社会的費用』、『成田とは何か』、『社会的共通資本』、『経済学と人間の心』等々、あらためて博士の著作を紐解いていて、アグロノミストとしての私の心に一番残っているのは『新農本主義をもとめて』であった（『「豊かな社会」の貧しさ』、岩波、1989、所収）。

「農業の問題を考察するときにはまず必要なことは、農の営み<人間本来のあ

り方に深くかかわるもの—引用者>が行われる場、そこに働き、生きる人々を総体として…いわゆる農村という概念的枠組みのなかで考えることが要請される」

「一つの国がたんに経済的な観点だけでなく、社会的、文化的な観点からも、安定的な発展を遂げるためには、農村の規模がある程度安定的な水準に維持されることが必要となってくる」

「そのためにはまず、農村における経済的、社会的、文化的環境を整備して、農村での生活を魅力的なものとするが必要になってくる。…生産基盤整備だけでなく、学校、病院、さまざまな文化施設、さらには人間らしい生活を営むことができるような街路、交通機関などという公共的サービスを含んだものである」

いずれも、至極当たり前のことである。しかし、それができないどころか、いま、農村は崩壊の危機に貶められている。そして、彼は、工業との格差を解消するために、農家単位当たり一定額の給付による専業農家に対する所得補助をするべきである…と提唱した。

それから 25 年が経過した。「日本農業はいま、いわゆる経済摩擦問題の生贄として、効率性の神にささげられようとしている」と懸念した博士の最後の仕事は「TPP を考える国民会議の代表世話人」であった。

「TPP は社会的共通資本を破壊する一農の営みとコモンズへの思索から」（農文協編、2010、『TPP 反対の大義』所収）は、皆さんにぜひ読んでもらいたい。

塩谷 哲夫
山崎農業研究所幹事
yamazaki@yamazaki-i.org

<新刊紹介>

安富六郎著『武蔵野・江戸を潤した多摩川——多摩川・上水徒歩思考』

「学生時代から歩くことが好きだった」という著者が多摩川河口から源流ま

での歩き継ぎを思い立ったのは70歳のとき。岡本かの子が多摩川について書いた『川』には「水源は水晶を産し、水は白水晶や紫水晶から滲み出るものと思っていた…」とあるが、水源を自分の目で確かめたいと思ったのがきっかけだった。

川沿いに1日歩いたら電車などで帰る、そして次の機会には、前回の到着点から出発する。これが「歩き継ぎ」だ。平場はともかく、源流に近づくにつれ難所も相次いだ。河口から源流までは140キロほどだが、まわり道をしなくてはならない箇所も多く、多摩川から取水される玉川上水をはじめとした古い用水や歴史遺構、神社仏閣にも足をのぼし、最終的には300キロ以上歩いたという。

わが国の水利用の歴史をみるかぎり水田開発が中心であった。ところが関東ローム台地や谷津が組み入った土地条件では、それとは異なる技術が必要とされる。台地開発の技術が従来の水田開発とどう異なるのか、水をめぐる技術がどのように伝承されたのか。現場の事例から見直したいと著者は思った。

多摩川を水源とする用水（上水）は数多い。本書で取り上げている用水（上水）は、二ヶ領用水、六郷用水、府中用水、玉川上水、野火止用水、青山上水、千川上水、三田上水など。玉川上水に先行してつくられた二ヶ領、六郷、府中用水と玉川上水との関係や玉川上水にまつわる秘密（施工期間の短さや取水位置の確定方法）、野火止用水開通の歴史的記述（「用水開通3年説」）についての自説の展開、千川上水、青山上水、三田上水といった今日ではかえりみられることの少なくなった上水の水路位置の推定や、それらがかつて果たした役割の考察など、興味深い記述が随所にみられる。

本書は、河川全域で見聞し、感じたことを記した「第Ⅰ部 多摩川源流を訪ねて」と、多摩川から取水された上水・用水について述べそれら相互の関連、人との関わり、社会の流れを見る「第Ⅱ部 武蔵野・江戸を潤した多摩川の上水・用水」からなる。

まえがきにある「水と土、人間万歳」「水は文化を運ぶ」といった言葉に込められているのは、上水・用水の開発にかかわった職人や技術者への尊敬の念、市井の人びとや農民たちの水とともにある暮らしへの共感であり、本書の基調をなす。多摩川・上水と人びととの関係について歴史的、技術的、文化的にと重層的に描いた本書は、自然と人間の関係を今日的な視点から総合的に捉えな

おすうえで格好の書。

◎安富六郎著『武蔵野・江戸を潤した多摩川——多摩川・上水徒歩思考』

<http://www.amazon.co.jp/dp/4540142631>

農山漁村文化協会

A5判・並製・199頁

ISBN-10: 4540142631

ISBN-13: 978-4540142635

1836円（税込み）

◎著者

安富六郎（やすとみ・ろくろう）

1932年、東京都生まれ。東京大学農学部卒業。東京農工大学名誉教授。山崎農業研究所前所長。農学博士。著書に『環境土地利用論』（農文協、1995年）、『身近な水の環境科学』（環境修復保全機構、2004年）、『農地工学』（共著、文永堂出版、2008年）、がある。

山崎農業研究所会員・田口 均

yamazaki@yamazaki-i.org

<お知らせ 1> 山崎農業研究所所報『耕 No.135』発行されました

山崎農業研究所所報『耕 No.135』が発行されました。

ご希望の方には雑誌を頒布いたします。

yamazaki@yamazaki-i.org

までご連絡ください。

《土と太陽と》（巻頭言）

「耕」について考える◎塩谷哲夫

〔第149回定例（現地）研究会〕家族協定による畜産業経営
農業を守り暮らしに生き甲斐を◎小泉浩郎

〔報告1〕生活改善普及活動と家族経営協定◎阿久津加居

〔報告2〕家族経営協定で酪農経営の複合化

——酪農・教育ファーム・牧場カフェ◎人見みゆ子

参加者の声◎樋口直美／小林俊夫／熊澤喜久雄／服部朋子／益永八尋

[第 150 回定例研究会] 自然災害を考える新たな視点

I 溪流保護から見る土石流災害と砂防問題◎田口康夫

[特別寄稿]

- ・土砂災害にみる災害リスクの回避についての考察◎渡邊 博
- ・広島市土砂災害から森林問題を考える◎大内正伸
- ・キューバの防災対応◎吉田太郎

〈連載〉“生きもの語り”の世界から(6)

百姓仕事の精神性—情愛からタマシイの世界への道／宇根 豊

〈農村定点観測〉

- ・語りつぐシルバーへの途（みち）／茨城県・大河原幸一
- ・「飽食の時代」に思う／長野県・橋戸良知
- ・飼料用米、本格生産の課題／新潟県・吉原勝廣

<お知らせ 2> 山崎農研編「平成のマドンナ」シリーズ No.8 完成しました

山崎農研編集「平成のマドンナ」シリーズ No.8(B5 版・30 ページ) が完成しました。既発行分も含め、電子版あるいは冊子で頒布しています。送料込み 500 円です。ご希望の方は yamazaki@yamazaki-i.org までご連絡ください。

(新刊)

No.8 家族経営協定でいきいき人生にトライ

栃木県那須塩原市

酪農・教育ファーム・レストラン 人見みゆ子さん

(阿久津加居聞き書き)

(既刊)

No.1 都市近郊に「オアシス牧場」を

埼玉県上尾市 榎本美津子さん (小井川敏子聞き書き)

No.2 世羅高原のそよ風になりたい

広島県世羅町 井上幸枝さん (後由美子聞き書き)

- No.3 むらにまちに子どもたちにふるさとの味を伝えたい
鳥取県鳥取市 西山徳枝さん（小泉浩郎聞き書き）
- No.4 働きやすい作業環境の改善
徳島県 藍住地区のお母さん達（小林徳子聞き書き）
- No.5 「奥久慈の味」から広がる出会い
茨城県大子町 齊藤キヌ子さん（臼井雅子聞き書き）
- No.6 デパートに進出した農村女性
栃木県宇都宮市 アグリランドシティショップ（阿久津加居聞き書き）
- No.7 貧しさに学びこころ豊かに生きる
群馬県嬭恋村 丸山みち子（丸山みち子著）
- No.8 家族経営協定でいきいき人生にトライ
栃木県那須塩原市 人見きみ子さん（阿久津加居聞き書き）
- No.9 （近刊）月に手が届く山間農家に嫁いで
高知県土佐町 和田計美さん

<編集後記> 男は好き嫌いを言っはならない、のだが

「男は好き嫌いを言っはならない」などというど何時の話かと笑われそうだが、子どもの頃はなんとなくそんなふうだに思っていた。まわりがそういう雰囲気だったのか、それとも何かの本で読んだのか、定かではないが、今でも自分の好みを人前で強く押し出すことにはなんとなく恥ずかしさをおぼえる。

だが、わたしはこの男はどうしても好きになれない。安倍晋三のことだ。

内（日本の国会）では「日教組！ 日教組！」「はやく質問しろよ！」とヤジをとばし、外では「夏までに安保法制案を成立させます」（米国議会演説）、
「憲法解釈の基本論理は全く変わってません」（G7サミット後の会見）など得々と語る。そう語る自分にうっとりしているようにも見える。

そういえば昨年末の衆院選時、自民党の圧勝がきまったなかでのテレビのインタビューでは、アナウンサーの批判的な意見にまったく耳を傾けようとせず（途中でイヤフォンを外した！）自説を滔々と述べる、といったシーンもあった。

要は、他人からあれこれ言われるのが嫌なのだ。この男は。自分を持ち上げて

くれる人のなかでしか語りたくないのだ。だから反論や批評に対しては感情的に反応する。

政治は本来、個人の好き嫌いからどれだけ離れられるかが肝要のはずだ。感情的になるというのもほめられた話ではない。感情的な人間が安全保障政策を語るなんて恐ろしい話ではないか。

今国会は期間延長しつつ、夏休み後くらいに安保法制案の決着を——という声も聞こえてきた。国民はなめられているのだろう。夏休みをはさめば国会のことには関心がなくなる……と。

衆院選では「経済がなにより大事。これはアベノミクス選挙です」といって自民党は議席をのぼした。それが手のひらをかえしたように「安保政策の変更についても承認をもらった」というのでは詐欺にひとしい。

「嘘を言ってはいけない」。子どもの頃はそんなこともよく言われたような気がするが、安倍はきっと違うのだろう。

2015年06月12日

山崎農業研究所会員・田口 均

yamazaki@yamazaki-i.org

山崎農業研究所編・発行／農山漁村文化協会発売
『自給再考——グローバリゼーションの次は何か』
(発売：2008/11 定価：1,575円)

http://shop.ruralnet.or.jp/b_no=01_4540082955/

たくさんのお書評・紹介記事をいただいています。感謝・感謝です。

◎辻信一さん（文化人類学者、ナマケモノ倶楽部世話人。明治学院大学教授）
グローバルの次は何？ ～卒業するゼミ生諸君へ

<http://www.sloth.gr.jp/tsuji/library/column64.html>

◎戒谷徹也さん（大地を守る会）

ブログ：大地を守る会のエビちゃん日記 “あんしんはしんどい”

「自給率」の前に、「自給」の意味を

<http://www.daichi.or.jp/blog/ebichan/2008/12/16/>

◎吉田太郎さん（長野県農業大学校教授、執筆者）

キューバ有機農業ブログ 自給再考の本が出ました

http://pub.ne.jp/cubaorganic/?entry_id=1822182

◎関良基さん（拓殖大学政経学部）

ブログ：代替案 書評：『自給再考 ―グローバル化の次は何か』

<http://blog.goo.ne.jp/reforestation/e/cb22650fa39384bdd22b61440fa81fa0>

◎大内正伸さん（イラストレーター・ライター）

ブログ：神流アトリエ日記（3）「書評『自給再考』」

<http://sun.ap.teacup.com/applet/tamarin/20081204/archive>

◎ブログ：本に溺れたい グローバリゼーションの次は何か

<http://renqing.cocolog-nifty.com/bookjunkie/2009/01/post-841e.html>

◎森川辰夫さん

NPO 法人 農と人とくらし研究センター／資料情報

<http://www.rircl.jp/shiryo.htm>

◎日本農業新聞／書評

（2009/01/19 評者：日本農業新聞編集委員 山田優）

<http://yamazaki-i.org/>

（画面トップの「書評はこちらから」よりアクセス下さい）

◎小谷敏さん（大妻女子大学）

日本海新聞コラム「潮流」／「自給」の方へ（2009/01/31）

<http://blog.goo.ne.jp/binbin1956/e/c895f6619b30ba7725e264b4daa75219>

◎白崎一裕さん（(株)共に生きるために）

月刊とちぎV ネットボランティア情報 vol.158／しみん文庫

<http://yamazaki-i.org/>

（画面トップの「書評はこちらから」よりアクセス下さい）

◎塩見直紀さん（半農半X研究所、執筆者）

ブログ：半農半Xという生き方～スローレボリューションでいこう！

立国集。

<http://plaza.rakuten.co.jp/simpleandmission/diary/200812270000/>

◎お願い「<読者の声>の投稿規定・メールの書き方」

1、件名（見出し）を必ず書いて下さい。「はじめまして」は省略して、言いたいことを具体的に。

2、氏名・ハンドルネームは、文末ではなく始めのほうに。

3、1回1テーマ、10行位に。

4、ホームページを持っている人は、文末に URL を。

5、JIS X0208 規格外の文字（機種依存文字）のチェックを。

<http://www.chem.sci.osaka-u.ac.jp/networks/check/jisx0208.html>

インターネットで使えない丸数字や半角カタカナ、括弧入り略号などは文字化けの原因です。

次回 380 号の締め切りは 06 月 19 日、発行は 06 月 22 日の予定です。

<本誌記事の無断転載を禁じます>

隔週刊「農業文化マガジン『電子耕』」 第 379 号

最新号・バックナンバーの閲覧

<http://archive.mag2.com/0000014872/index.html>

<http://nazuna.com/tom/denshico.html>

購読申し込み／解除案内

<http://www.yamazaki-i.org>

2015.06.12（金）発行 山崎農業研究所&編集同人

<mailto:yamazaki@yamazaki-i.org>

***** ここまで『電子耕』 *****